

第144回

西日本整形・災害外科学会学術集会

ランチョンセミナー 2

11.12 SAT 12:30
13:30

第2会場

(ANA クラウンプラザホテル宇部 3F 国際会議場〔東〕)

究極の低侵襲THAをめざそう！

座長

佐賀大学医学部 整形外科学教室
主任教授

馬渡 正明 先生

演者

船橋整形外科病院人工関節センター

三浦 陽子 先生

本セミナーでは日本整形外科学会教育研修講演
単位を取得することができます。

■認定単位：日整会専門医単位 (N) 1 単位

■必須分野：[11] 骨盤・股関節疾患



究極の低侵襲THAをめざそう！

船橋整形外科病院人工関節センター

三浦 陽子 先生

本邦における人工股関節置換術（THA）の手術件数は年々増加しており、それに伴い合併症の多い高齢者、早期社会復帰を目指す若年者の患者も増加の一途である。今後我々整形外科医は単にTHAを施行するだけでなく、低侵襲で安全性の高い、満足度の高い手術を求められている。

当院では全てのTHAを仰臥位前方アプローチ（Direct Anterior Approach：DAA）にて施行し、その数は年間1200件に上る。ほとんどすべての片側および両側症例が術後4-6日で自宅へ退院する。短期間で退院するということは、疼痛が少なく、合併症を最小限にしないことには達成困難である。つまり早期退院を目指すことは、安全、安心、確実な手術を追求することと同義である。DAAを含む前方系アプローチは筋腱温存アプローチであるが、いくつかのピットフォールやラーニングカーブの存在が指摘されており、それらを回避するポイントを述べる。またインプラント選択も術後疼痛の抑制には重要である。

また入院期間の短縮は、医療費の抑制に効果的であり、今後の日本の医療費の適正化に大きく貢献するのは間違いない。

今回様々な観点から低侵襲THAを再考し、その意義を検討したい。

販売業者

TEIJIN

 帝人ナカシマメディカル株式会社

〒709-0625 岡山市東区上道北方688-1

TEL. 086-279-6278 FAX. 086-279-9510